

I 支援ガイドブックの活用

1 こんな生徒はいませんか？

高等学校では、「ちょっと変わった子」「ちょっと気になる子」と感じている生徒を含めて、発達障害等がある生徒の存在を確認することがまず必要となります。

ホームルーム担任，教科担任，部活動の顧問などの様々な立場の教職員が担当する生徒に対して，学習面や行動面に困難さがあることに気付くことから指導や支援が始まります。

【学習面では】

- ・授業中，教師の説明や質問の後ですぐに聞き返して，内容の確認をする。
- ・板書を一定時間内に書き終えることができない。
- ・平仮名が多い文章を書く。また，画数が多い漢字の間違が多い。
- ・特定の教科や科目が極端に苦手である。

【行動面では】

- ・整理整頓が苦手で，学習道具や持ち物を忘れてたりなくしたりすることが多い。
- ・日常生活の中で自分の決めた行動パターンがあり，変更が難しい。
- ・特定の物や順番などに対してこだわりがある。

【対人関係面では】

- ・冗談や暗黙の了解が理解できずに，言葉通りに受け取ってしまう。
- ・場面や状況に合わない発言や行動をしてしまう。
- ・友だちとの会話が一方的になりやすい。

このような特徴がいくつかあてはまる生徒は，特別な教育的支援が必要な生徒かもしれません。

高校生段階は，精神面からも不適応行動に陥ることもありますので，学習面や行動面の困難さが発達障害等によるものであるか判断がつきにくい場合も多くあります。しかし，発達障害等がある生徒は，適切な対応がなされないと二次障害（P3参照）を引き起こすことが考えられますので，これらの問題の背景に，「もしかしたら発達障害があるかもしれない」という視点を持ち，日ごろから適切な指導や支援を行うことが大切になってきます。

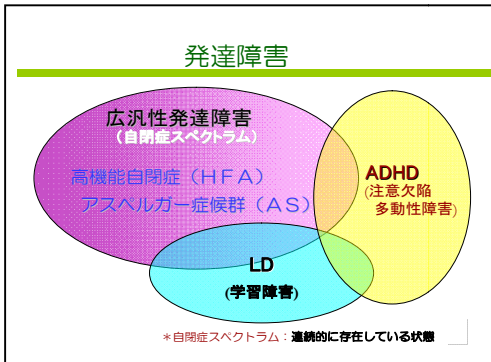


I 支援ガイドブックの活用

2 発達障害とは

発達障害の特徴は、

- 全般的な知的発達の遅れが軽度か、あるいは知的発達の遅れを伴わない。
- 本人の努力不足や家庭環境、保護者の養育態度が原因となるものではない。
- 脳の中樞神経に何らかの原因があると考えられている。



主に

高機能自閉症(HFA)・アスペルガー症候群(AS)
LD(学習障害)
ADHD(注意欠陥多動性障害) など

広汎性発達障害とは、高機能自閉症、アスペルガー症候群等、自閉症に近い特徴をもつ障害の総称

高機能自閉症 (HFA)・アスペルガー症候群 (AS) ～特有の世界観がある～

高機能自閉症 (HFA) とは、3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわること、

を特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。

また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定され、

上記3つの特徴の他、聴覚や触覚などの感覚面に過敏さがある場合もある。

アスペルガー症候群 (AS) とは、知的発達の遅れを伴わず、

自閉症の特徴である言葉の発達の遅れを伴わないものをいう。

・平成15年3月の「今後の特別支援教育の在り方について (最終報告)」参考資料より

<支援>

- 特性を理解し、わかりやすい環境を整える。
- 伝えたい内容を視覚的に構造化する。
- 聴覚や触覚などの感覚面の過敏さに配慮する。



【視覚的な支援の例
～タイムタイマー～】

LD (学習障害) ～学び方に特徴がある～

LD (学習障害) とは、

基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、

聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち

特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

・平成11年7月の「学習障害児に対する指導について (報告)」より

<支援>

- 自信や意欲を高められるよう、学び方の特徴や特性を理解し、環境調整や得意な認知能力を生かす指導を心掛ける。(例：読んでいる行がわかる工夫 下図参照)



【厚紙にスリットを入れた例】

I 支援ガイドブックの活用

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

ADHD（注意欠陥多動性障害）

～自分をコントロールすることが苦手である～

ADHD（注意欠陥多動性障害）とは、

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

・平成15年3月の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」

参考資料より

<支援>

- 刺激の調節、集中時間の配慮、得意な認知処理の活用、行動調整等を行う。
- できたことを認め、自尊心を高める。

二次障害について

発達障害のある生徒は、その障害特性によりさまざまな困難を抱えているため、それに対処するための適切な支援が必要である。適切な支援の不足により、生徒の自己肯定感や自尊心が低下し、ネガティブな社会行動を誘発する。その行動がさらに周囲を困惑させ、生徒の困難を増幅させていく。このような悪循環によって、本来の障害とは別の新たな行動面や情緒面に二次障害を引き起こすことがある。

二次障害が起こると本来の障害に伴う困難さの克服がさらに難しくなる。

<見えにくい一次障害>

・学習の困難・行動上の困難・人間関係でのトラブル 等

周囲の怒りや困惑により
不適切な対処の増加
(さらなる叱責・避ける 等)

周囲の不適切な対処
(叱責・非難・いじめ 等)

失敗経験の積み重ねによる
自己肯定感や自尊心の低下

ネガティブな社会行動を誘発
(反抗・暴力・ひきこもり 等)

二次障害

極端な反抗、暴力、家出、放浪、不安、脅迫症状、対人恐怖、引きこもり 等

さらに進むと

*悪循環にならないよう、適切な支援が必要

生徒に関わる保護者や教師、友だちの対応等は、生徒の人格形成過程に影響を与えると同時に、生徒もまた、それら環境の諸要因に影響を与えています。環境と生徒の関係は、双方向性の相互作用です。不適切な行動が、生育歴や障害のためだと決め込むのではなく、中立的かつ客観的な視点で今の状況を捉え、発達障害のある生徒を取り巻く環境を含めて、適切な支援を探っていくことが大切です。

必要に応じて、医療等の関係機関と連携し、指導や支援をしていきましょう。

I 支援ガイドブックの活用

3 支援のための手順マップ ①

入学



中学校との連携
P 4 2

チェックリストの領域別支援
例の活用 P 1 3～

行動の気になる生徒のチェックリスト P 7～



授業チェックシートの活用
P 4 3～
ソーシャルスキルトレーニングの実施 P 4 6～

校内支援体制づくり
◆ケース会議の実施 P 3 1
◆個別の指導計画の作成 P 3 2
◆校内委員会 P 3 3

卒業後の進路に向けての支援
P 4 0～

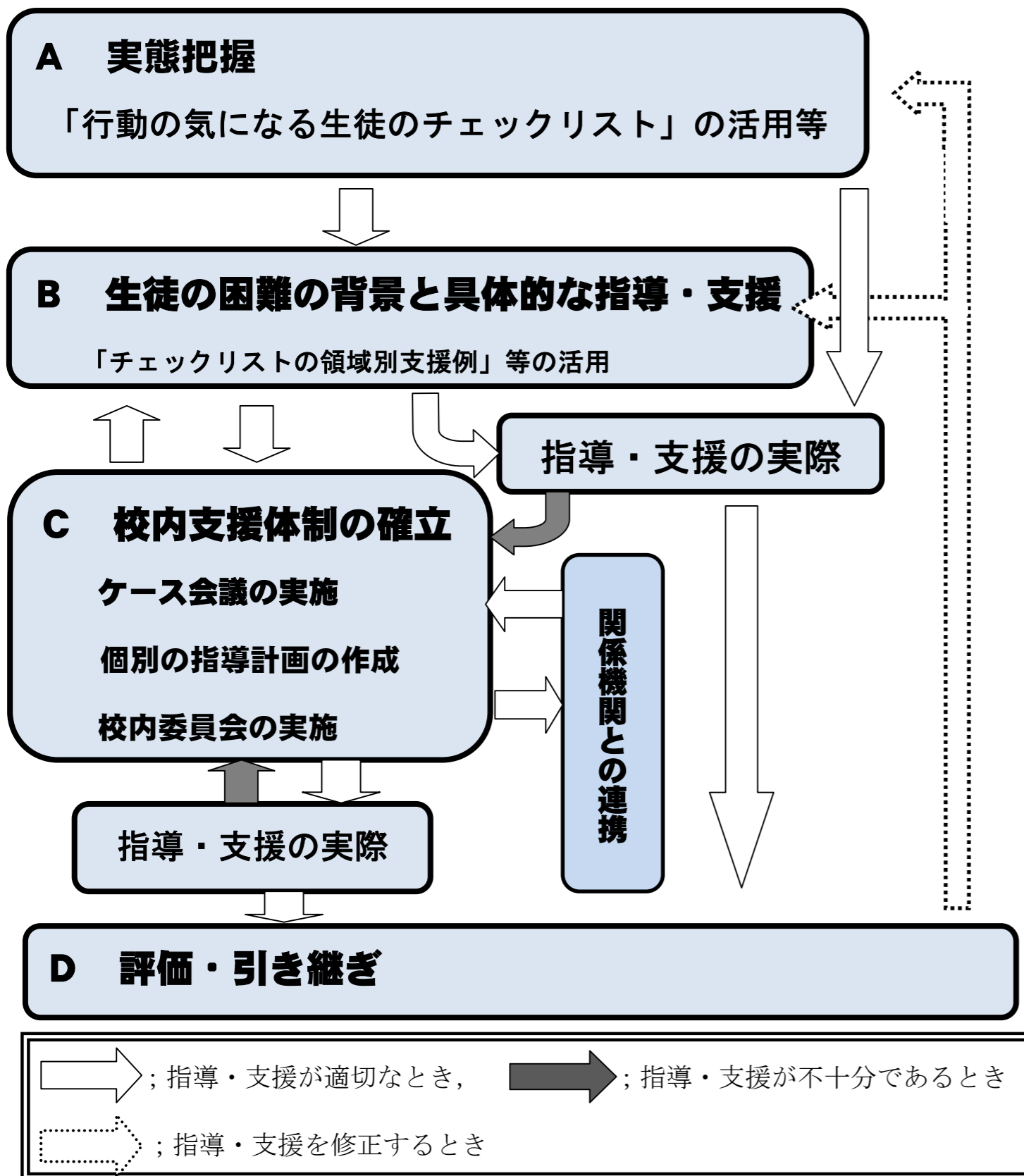
関係機関との連携 P 5 1～

卒業



I 支援ガイドブックの活用について

3 支援のための手順マップ ②



A 実態把握 P 7～12, P 32
気になる生徒の存在に、担任や教科担当者などが気付くことが指導や支援のスタートになりますので、「行動の気になる生徒のチェックリスト」を活用して、気になる生徒の実態把握をしてみましょう。
また、指導や支援を必要とする生徒の行動等の背景に、様々な要因が複雑にからんでいる場合が多いため、この「行動の気になる生徒のチェックリスト」だけでなく、行動観察や生育歴など多面的に情報を収集することも必要になってきます。

B 具体的な指導や支援につなげて P 13～
個々の生徒の実態が把握できたら、次のステップとして、困難さの背景を探り、その生徒に合った適切な指導や支援につなげていくことが大切です。
「行動の気になる生徒のチェックリスト」を活用して学習面や行動面の困難さが把握できたら、「チェックリストのタイプ別支援」や「チェックリストの領域別支援」「支援の実例」などを活用して、指導・支援の工夫をしてみましょう。
「チェックリストのタイプ別支援」は「行動の気になる生徒のチェックリスト」のレーダーチャートの結果から、生徒に対する支援を学習面や情緒・行動面などタイプ別にまとめました。
「チェックリストの領域別支援」は学習の困難例に対して考えられる背景要因を整理して、指導や支援例を記載しています。

C 校内支援体制を整えて P 31～
ケースによっては、校内支援体制を整えて学校全体で組織的に指導や支援をする必要があります。管理職や特別支援教育コーディネーターが中心となって、ケース会議や校内委員会を開催し、個別の指導計画の作成をとおして、具体的な指導や支援の方法などを検討します。また、外部の専門機関との連携が必要な場合などもあります。
「IV 校内で支援するために」に具体的な進め方の例をまじえて記載しています。

D 評価と引き継ぎ P 32, P 37
学習の評価について、具体的な配慮例をコラムに記載しました。また、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成して教職員間の情報の円滑な引き継ぎや指導や支援の継続性を図ることも大切なことです。

実践事例集 P 38～
学習面や行動面に困難のある生徒に対する指導や支援を進める上で留意することについて、実践事例を通してまとめました。
生徒の学習面や行動面の困難さに対応した授業実践をする上で活用できる、自己チェック用の「生徒の学びを支えるための授業チェックシート」を作成しました。みんながわかる授業づくりに向けて、大切にしたい観点を整理してあります。
また、中学校との連携や卒業後の進路に向けた取り組み、ソーシャルスキルトレーニングの実践等についてまとめました。

第1章
第2章
第3章
第4章
第5章